

つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 79号 2010.6.16 発行 社会政策研究所

=====

悲しい犯罪の例

この年齢であれば生活保護の受給ができたと思われるが…。しかし、このような微罪で前科を重ねた高齢者で刑務所は満杯状態になっている。見逃せられない日本の社会の現実。

空気入れを突き付けコンビニ強盗 名古屋、82歳逮捕 産経新聞 2010年6月7日

7日午前2時ごろ、名古屋市中村区の「セブン・イレブン名古屋中村町7丁目店」に、高齢の男が押し入り「金を出せ」と脅した。店員の通報で愛知県警のパトカーがサイレンを鳴らし近づくと、男はカウンターの商品を奪って逃げたが、中村署員が店から約5メートル離れた路上で、強盗の疑いで現行犯逮捕した。男は自称住所不定の無職、H、82歳。中村署によると、「数日前から何も食べてなく、食費が欲しかった」と供述している。H容疑者は自転車の空気入れを店員に突き付け「金を出せ、強盗だ。1万円でもいい。ガラス割るぞ」と脅し、店員が千円札を差し出すと、「いらん、1万円出せ」と食い下がった。サイレンを聞くと、缶コーヒーとロールケーキ（計238円相当）をわしづかみにして逃げたという。

塀の中、過剰収容の影 府中刑務所見学

朝日新聞 2010年6月15日

昨年5月の裁判員制度導入を契機に、司法が身近な存在になりつつある。しかし、懲役判決を受け、刑に服す人たちがどんな生活を送っているのかは、意外に知られていない。

日本で最も受刑者が多い府中市の府中刑務所を見学した。（根岸拓朗）

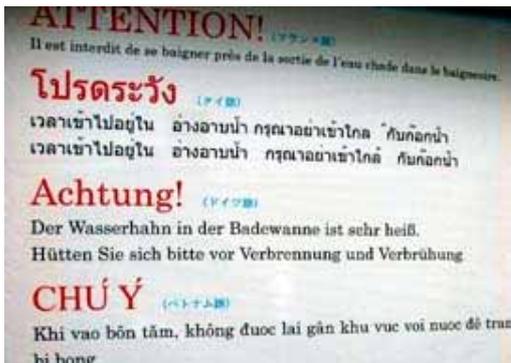
6人が生活する部屋。棚には本や雑誌が並ぶ



ガラスケースの中にこの日の食事の

献立が展示されていた。1日3食の予算は約5000円。宗教上の理由で肉が食べられない外国人受刑者には代替食が出される





浴場の前には、外国人向けに様々な言語に訳された注意書きがあった=いずれも府中刑務所

■定員オーバー

訪問したのは今月8日。同刑務所では、4月末で2923人(うち外国人448人)が生活する。敷地面積は、東京ドーム5個分を上回る約26万2千平方メートル。塀の高さを聞くと、案内役の藤本英雄調査官は「機密なので教えられないんです」と苦笑いした。

最初に見学したのは病気やけがの受刑者を治療する「医務部」。受診している受刑者は高齢者が多い。体や精神の病気や障害で、63%の1842人が注意深い配慮が必要な「要配慮状況」。これに対し、医師は7人。このため外部の病院に通うケースも多くなっているという。

次に居室。部屋によっては追加ベッドを置くなどして1人部屋で2人、6人部屋で最大8人が寝起きすることもある。収容人数が増え、約100人が定員を超えているためだ。ストレスやけんかの一因にもなるという。

■31の工場で作業

懲役刑を受けた受刑者は、午前8時から午後4時40分(うち40分は昼食)まで、工場で作業をする。緑色の作業服を着た受刑者たちが黙々と手を動かす。31の工場があり、金属部品の組み立て、ミシンを使った裁縫、シールの印刷など様々な作業がある。

自動車の整備工場もあり、一般の人が車検を頼むこともできる。藤本さんは「多くの受刑者の仕事を確保するのは大変。職員が様々な企業を回っている」と話す。受刑者に支払われる「作業報奨金」は、平均で1カ月に2500~3千円程度だ。

■様々な「部屋」

規律違反などをした受刑者が1人で過ごす「単独室」。 「懲罰」と書かれた赤い札の部屋では、どの受刑者も通路側を向いて座っている。頭をだらりと垂れたままの人、鋭い目つきでこちらをにらむ人。反省のため同じ姿勢を取らなければいけないのだという。防音壁で囲まれた「静穏室」もある。

自傷行為をする受刑者は、体をぶつけてもけがをしにくいよう特殊な壁がある「保護室」に入れられる。ドアは一般の居室より分厚い作りで三つの鍵がつき、家具はない。天井に監視カメラがあり、24時間態勢で見張っている。壁にツメでつけたらしい落書きがあった。「ここで過ごすのは2~3日程度ですが、人によっては繰り返してしまう」と藤本さん。

■増える見学者

見学は1時間ほどで終わった。同刑務所の受刑者の平均入所回数は4.5回(日本人の場合)。出所しても生活が安定せず、犯罪を繰り返す人が多い。就労支援、覚せい剤や性犯罪などの再犯防止など課題は山積している。

同刑務所によると、裁判員制度開始を契機に見学者が増えているという。被告の一生を左右する裁判に、私たち市民が参加する時代だ。社会の一部でもある刑務所に、より多くの人に関心を持ってもらいたいと感じた。

見学希望者は同刑務所(042・362・3101)へ。

